

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 13 日現在

機関番号：34309

研究種目：基盤研究（B）（海外学術調査）

研究期間：2010～2012

課題番号：22401015

研究課題名（和文） アジアにおけるジェンダーとリプロダクティブヘルスの学際的研究

研究課題名（英文） Interdisciplinary Research on Gender and Reproductive Health in Asia

研究代表者

竹下 夏美（TAKESHITA NATSUMI）

京都橋大学・看護学部・准教授

研究者番号：60352465

研究成果の概要（和文）：

アジア各国（韓国、ネパール、タイ、ラオス、インドネシアの5か国）で増加傾向にある HIV/AIDS に関連して、性や性行動に対する考え方および性感染症や HIV/AIDS に関する知識の程度および性と生殖に対する考え方等の実態調査を行った。加えて、インドネシアでは、ピアリーダー（高校生・大学生）を現地で養成して、その活動をサポートし、ピアエデュケーションの評価まで行う介入研究を実施した。

アジア各国の調査の結果、性教育のアプローチには、「性」を語ることへの抵抗やタブーがあり、生物学的側面の知識教育や道徳教育が中心であった。HIV/AIDS や性感染症の増加への対策として性教育や思春期教育でのピアカウンセリングの活用が必要と考えられる。インドネシアの実施内容は知識教育や道徳教育の枠組み内で実施されている。今回、日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会が実施している自己や他者理解を深め、尊重し大事にするプログラム内容をもとに開発したインドネシア版ピアリーダー養成プログラムは HIV/AIDS や性感染症の増加への対策の一つとして有効であるのではないかと考えられる。今後さらに対象国の文化・宗教・慣習等を考慮しながらプログラム開発し、ピアリーダー養成と活動拡大の必要性が考えられた。

研究成果の概要（英文）：

In relation to HIV/AIDS, which is showing a tendency to increase in Asian countries, we intend to conduct a field survey to establish people's views on the following: Sexuality and sexual behavior; the level of knowledge regarding sexually transmitted diseases including HIV/AIDS; views on sexuality and reproduction in Asian countries (five nations, South Korea, Nepal, Thailand, Laos, and Indonesia). Moreover, in Indonesia, we carried out an intervention study to train peer counselors (high school and university students) on-site and support their activities and evaluate the peer education, based on the investigation conducted in West Kalimantan in Indonesia.

The result of investigation of Asian countries, in carrying out approach of sex education, there were resistance and the taboo of talking about a "sex." Therefore, sex education was mainly the moral education and the knowledge education of a biological aspect about a sex. As a measure against the increase in HIV/AIDS or a sexually transmitted disease, when carrying out sex education and adolescence education, peer counseling is effective. The contents of peer activity of Indonesia are carried out within the framework of knowledge education or moral education. The Indonesia version Peer leader training program was developed based on the contents of a program of Japan peer counseling and a peer Education Association (JPCA EA). Program development is performed taking into consideration the culture, religion, custom, etc. of the region, and there is the necessity for leader training and activity expansion.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
2011年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2012年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
年度			
年度			
総計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：リプロダクティブヘルス、ジェンダー、アジア、性教育、性感染症、ピアカウンセリング、思春期教育

1. 研究開始当初の背景

世界の HIV 感染者数はこれまでで最も多い推定 3320 万人となった。世界的な感染率にほとんど変化はないが、比較的ゆっくりとした新たな HIV 感染が現在でも続いているため、過去最高にまで達した (UNAIDS2007)。先進国では新たな HIV 感染者は減少または横ばいの傾向がみられるようになってきている (SAFTY JAPAN)。しかし、わが国では 2007 年の HIV 感染者が 1082 件と初めて 1000 件を超え、過去最高となった。またエイズ患者の報告数も 418 件と前年の 406 件を超え、これまでで最も多くなっている。HIV 感染者・エイズ患者合わせて 1500 件であり、平均すると 1 日あたり 4.1 人という数に昇っている。その内訳は性的接触によるものが全 HIV 感染者報告数の 87% を占め (厚生労働省 エイズ動向委員会 2007)、エイズに対する予防対策が進められ、一般的な知識が広がりつつある中でも、その成果が上がらず HIV 感染者・エイズ患者ともにいまだ増加の一途をたどっているという現状であった。

他の先進諸国が横ばいか減少という傾向にある中、徐々に増加の傾向にある日本の属する地域、つまり世界的にみたアジアの現状はどうか。サハラ以南アフリカに次いで南アジアおよび東南アジアの HIV/AIDS に関する推計値はほかの地域に比べ特に高い (UNAIDS2007) ことがわかった。そのアジアの中で最も感染率が高いのは東南アジアで、流行の傾向は国ごとにさまざまであった (UNAIDS2007)。UNAIDS2007 によるとカンボジアや、ミャンマー、タイでは HIV 感染率の低下がみられるが、インドネシア、ベトナムでは感染率の上昇が続いている。カンボジアでは国家及び非政府組織が積極的に関与し行ってきた行動変容施策が成果を上げているという。売春の際のコンドーム使用率が飛躍的に上昇してきているため、感染率減

少の効果が表われたと考えられる。一方、特に急激な HIV 感染が進んでいるのはインドネシアである。その感染経路はおもに注射針の使い回しや無防備な性行為である。清潔な注射針の入手方法を知っているのに 90% 以上の人が不潔な注射器具を使用し (UNAIDS2007)、感染の自覚のないまま性交渉で感染をさらに広げていると考えられる。また、コンドーム不使用など、無防備なセックスを行うというリスクの高い行動も目立って見られた。タイでコンドームが積極的に配布される一方、イスラム教国のインドネシアでは、コンドーム無料配布や、注射針の配布への拒否反応が強い。同性間でのセックスや薬物使用を促進してしまうのではないかと懸念されているためである。このことから、インドネシアでは対策が始められているにもかかわらずうまく作用していないことや社会宗教的な背景もあって、HIV/AIDS への対策がなかなか進んでいないということがわかった。平成 19~21 年度基盤 B 海外「インドネシアにおけるジェンダーとリプロダクティブヘルスの学際的研究」(宮菌夏美代表)で行った西カリマンタン州の調査では、州都であるポンティアナク市において、州の援助を受け性感染症および HIV/AIDS 予防対策として NPO 団体が主となってコンドームの装着法をはじめ、性教育を積極的に実施しているという動きが見られた。また、中学校、高校で性教育をより具体的にしようというプログラムが始まった。しかし、実際に中学校・高校の性教育担当の教員 (公民、生物、宗教担当者) にインタビューを実施したところ、道徳的な内容に終始し、実際的な教えはないことが明らかになった。西カリマンタン州の調査では、性感染症および HIV/AIDS、DV、性行動と生殖に関する質問紙調査、TBA や地域助産師、地域住民未婚既婚男女双方へのインタビューや FGD、性教育担当者や政府関係

者へのインタビュー等も行った。その結果、社会・文化的背景、宗教や教育レベルが性行動と生殖に強い影響があること、男女の力関係のアンバランスがあることがわかった。また、教育介入することによって改善の方向性が見出されることも示唆された。インドネシアの一地域に関して得られた情報だけであるが、多方面から分析することの必要性を考えさせられた。アジアの中でも IMR や MMR、性感染症や HIV/AIDS の改善がみられる国とそうでない国がある。そこに例えば男女の力関係や思春期教育が関係しているのか、アジア各国の現状と課題、対策について共通の尺度や調査法を用いて分析・考察する必要性が示唆された。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アジア各国で現地の研究協力者と協働しながら以下の 1~3 の項目に関連した調査を行い比較研究し、性感染症および HIV/AIDS 感染予防のために必要な対策について考察する、であった。1. ジェンダーに関する参加型社会調査の分析枠組みを用いて、性行動と生殖活動における男女間の力関係を分析する。2. アジア各国で増加傾向にある HIV/AIDS に関連して、性感染症や HIV/AIDS や DV や生殖や性行動に関する質問紙を各国の言語に翻訳し使い、都市部と村落部における性や性行動に対する考え方および性感染症や HIV/AIDS に関する知識の程度および性と生殖に対する考え方について、実態調査を行う。3. 学校、家庭あるいは地域における性教育の実態調査を行う。但し、インドネシアでは、平成 19~21 年度の基盤研究 (B) の結果からピアリーダー (高校生・大学生) を現地で養成して、その活動をサポートし、ピアエデュケーションの評価まで行う介入研究をことも目的とした。

3. 研究の方法

インドネシアで用いた性教育に関連したインタビューガイドを参照しながら各国で半構造的面接法によるインタビューによる質的調査を行った。それに加えて、インドネシアではピアリーダー養成のためのプログラム開発と実施、半構造的インタビューや質問紙調査、実際の活動内容の参与観察と参加者が実際に作成した内容の分析、プログラム最後の参加者のプレゼン等を分析・評価の対象とした。

4. 研究成果

調査対象国は、韓国、ネパール、タイ、ラオス、インドネシアの 5 か国であった。

韓国ではアハ青少年性文化センター長に韓国の青少年の間で性に関して問題になっていることについてインタビューを実施し

た。また性文化センターを案内してもらい、韓国の性教育のあり方を観察した。また梨花女子大学の韓国性暴力救援センターを立ち上げたイ・ミョンソン氏韓国の性暴力、セクハラの状態についてインタビューを実施した。

タイでは、高校の教員と校長にインタビュー調査を行った。その結果、タイにおける大きなトピック HIV/AIDS であるにもかかわらず、感染拡大が顕著だった 1990 年代から 2000 年代初頭から 10 年程過ぎた現在、高校での HIV/AIDS に関する健康教育はほとんどされていないことが明らかになった。調査地は感染者の確率が最も高い北部の県であったがそこでも高校では HIV や性に関する積極的な教育はほとんどなされていないことが明らかになった。

ネパールでは、リプロダクティブヘルス政策、特に性感染症、HIV/AIDS 等予防施策の変化を明らかにした。即ち、1980 年代~90 年代にかけて、性感染症予防、性教育の主たるターゲットは、農村部の主婦層を始めとする女性たちであり、その教育方法は識字教育や地域で行われる開発プログラムを通して実施されてきた。

しかし、2000 年代に入り、性感染症予防教育のメインターゲットは若年性へと移行している。学校教育においても性教育は取り入れられているものの、特に力を入れているのが UNFPA のパートナーであるネパール家族計画協会 (Family Planning Association of Nepal : FPAN) である。FPAN では、ピア教育方法を取り入れ、ピア教育受講者を通して、性教育の裾野を広げつつある。また「ユースフレンドリークリニック」など、若年層向けのクリニックを開き、性感染症予防教育のみならず、人身売買被害を食い止めるための施策が施されていることがわかった。

ラオスでは、保健省、教育省、ラオス女性同盟、ラオス青年同盟の担当官にラオスの教育システムおよび性教育の実態についてヒヤリングを行った。高校のカリキュラムには性教育を特化したものはなく、生物の授業の一環として、生殖行動、月経、HIV/AIDS が含まれていることがわかった。現在、国際機関の支援を得て教育省と保健省が共同で学校保健システム作りを行っているところである。しかし、学校保健の中心は義務教育である初等教育をターゲットにしている。2005 年に制定された学校保健政策 (National School Health Policy) では健康的な食べ物と安全な水、タバコ、アルコール、麻薬・覚せい剤濫用、公平さ、学校の緑化、応急の手当て (初期手当、災害) よくある病気のコントロール、HIV/AIDS が重点項目として挙げられている。

また、女性同盟が運営しているビエンチャン特別市にある Youth Health Clinic にてサービスの概要、受診者の詳細について情報収集を行い、月間 200 名の受診者があり、避妊方法や STI に関する情報提供と治療を行っているが財政的問題を抱えている状況であった。

思春期の性行動の実態としてはUNFPAによる調査が行われていたことから、在ラオスのUNFPA担当者、および国立病院の婦人科外来医師からのヒヤリングを行った結果、婚姻関係にないカップルの性行動は慣習的に禁忌ではあるが、実態としては存在しており、性教育や相談事業などの必要性は高く早急な対策に向けてラオス政府および関連機関と連携し準備を進めているとのことであった。

インドネシアでは、日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会が実施している内容を研究会代表の許可を得て、インドネシア版のピアリーダー養成プログラム開発を行い、西カリマンタン州のBKKBN(家族計画局)と協働でピアリーダー養成セミナーを開催した。日本で実際にピアカウンセリング活動を実施している大学生と日本在住のインドネシア人を通訳として同行してもらい、準備・実施他等の協力をしてもらった。インドネシアの受講者は、大学生、高校生の男女であった。また高校や大学教員、家族計画局のメンバー、ピアリーダーを實際に行っているNGO関係者等も見学や協力という形で参加した。最終日は大学や高校に行き、大学生や高校生を対象に養成研修に参加した学生たちがプレゼンを行い、養成側(日本)が評価を行った。生き生きとプレゼンを行い、参加者からも好評であった。ピアリーダー養成を受けた学生及び参加者には、修了証と参加証を手渡した。今後の課題としては、養成後のフォロー体制の構築と養成の継続性である。養成以外に参加者への参与観察や家族計画局、NGOメンバー、参加者たちに性教育ほかのインタビューを実施した。また、売春婦の多いシンカワン市に赴き、保健局やHIV/AIDS関連の治療等に関わっている病院と医師を訪れインタビューを実施した。残念ながら時間の関係で夜間の状態がみられなかったが具体的な状況について聞くことができた。また資料収集も行った。さらに一般の中学生、高校生、大学生への性教育や現在抱えている問題や周囲に関して特に感じている問題等、インタビューも実施した。養成者セミナーに参加している優等生とは異なる生の声を聴くことができた。保健局にも赴き、思春期健康に主に携わっている担当者にもインタビューした。また地域住民に家族計画に関するインタビューも行った。情報収集、資料収集等をインドネシア西カリマンタン州ポンティアナクで行った。結果、慣習や宗教等の縛りやインターネットを含むメディアによる影響があり、モラルと現実の乖離がみられた。日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会が実施している自己や他者理解を深め、尊重し大事にするプログラム内容をもとに開発したインドネシア版ピアリーダー養成プログラムはHIV/AIDSや性感染症の増加への対策の一つとして有効であるのではないかと考えられる。今後さらに対象国の文化・宗教・慣習等を考慮しながらプログラム開発し、ピアリーダー養成と活動拡大の必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ①生田まちよ、竹下夏美、牛之濱久代、下敷領須美子、インドネシア共和国西カリマンタン州における妊産婦と乳幼児の食習慣に関する調査、熊本大学医学部保健学科紀要第7号、2011
- ②松岡悦子、産むのも育てるのも大変ーインドネシア・ジャワ島の近代化とリプロダクション、民博通信、134巻、12-13、2011
- ③AIUCHI Masako, HABAZAKI Makiko, Women and election in Nepal; Why are women politically active after civil war?, 北翔大学『人間福祉研究』第14号、1-15、2011
- ④嶋澤恭子:世界見聞録 私が見た医療 魂を繋ぎとめること、p26、月刊新医療、(株)エムイー振興協会、346(4)、2011.
- ⑤松岡悦子、「リプロダクションの文化/自然/人工」『民博通信』131、18-19、2010

[学会発表] (計24件)

- ①幅崎麻紀子、アジアのリプロダクションの現状〜ネパール〜、「アジアのリプロダクション」研究会、2013年3月16日、奈良女子大学
- ②幅崎麻紀子、文化に埋め込まれた、子供の身体の声を理解する営み：ネパールを事例として、国立民族学博物館共同研究会「現代の保健・医療・福祉の現場における『子どものいのち』」平成24年度第4回研究会、2013年3月9日、国立民族学博物館
- ③Sumiko Shimoshikiryo, Natsumi Takeshita, Sri Sunarti Purwaningsih, The "Peer Leader Training lecture" practice report of BKKBN cosponsorship in West Kalimantan, Indonesia, The 16th. East Asian Forum of Nursing Scholar (EAFONS), February 21-22, 2013, Bangkok, Thailand
- ④ HABAZAKI Makiko, The Politics and Local Praxis of Family Planning in Contemporary Nepal, ICOWHI (the International Council on Women's Health Issues) 19th International Congress, November 14-16, 2012, Emerald Hotel, Bangkok, Thailand
- ⑤ Shimazawa, K.: Postpartum women's health problem in Southern Laos, The International Council on Women's Health Issues (ICOWHI) 19th International Congress, 2012.11, Bangkok, Thailand.
- ⑥ 幅崎麻紀子、ネパールにおける家族計画をめぐる「開発」とローカルな実践、日本南アジア学会第25回全国大会、2012年10月6日、

東京外国語大学

⑦幅崎麻紀子、生殖テクノロジーの流入とローカルな実践：ネパールを事例として、生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会、2012年9月7日、東京大学本郷キャンパス

⑧ Shimazawa, K.: Postpartum mood disorders of women in urban Laos, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2012, 2012.7. Hanoi, Vietnam.

⑨ Hisayo Ushinohama, Natsumi Takeshita, Sumiko Shimoshikiryo, Machiyo Ikuta, Maternity Care and Issues Related to the Activities of Traditional Birth Attendants in West Kalimantan, Indonesia, The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery, Kobe Portopia Hotel, Kobe, JAPAN, June 30th-July 1st, 2012

⑩嶋澤恭子: ラオスの都市部A病院における女性の「産むこと」の諸相, 第26回日本助産学会学術集会, 2012. 5. 1-2、札幌.

⑪ Etsuko Matsuoka, Comments to the Panel “Comparative Studies on Family Planning in late Twentieth-Century Asia: Politics of Reproductive Health and Rights.”, The 2012 Annual Conference of Association for Asian Studies, Toronto Canada, 2012. 3. 14-20.

⑫ Makiko Habazaki, Family Planning and the Widening Social Disparity among Women in Contemporary Nepal, The 2012 Annual Conference of Association for Asian Studies, Toronto Canada, 2012. 3. 14-20.

⑬ Natsumi Takeshita, Family Planning and Gender in Indonesia under Suharto, “Comparative Studies on Family Planning in Late Twentieth-Century Asia: Politics of Reproductive Health and Rights”, The 2012 Annual Conference of Association for Asian Studies, Toronto Canada, 2012. 3. 14-20.

⑭ Etsuko Matsuoka, Is Medicalization of Childbirth Good for Women’s Health?, 6th APCRSR “Claiming Sexual and Reproductive Rights in Asian and Pacific Societies”, Yogyakarta, Indonesia, Oct. 19-22, 2011

⑮ 松岡悦子, 「生き残るための家族計画—インドネシア・カリマンタン島の事例より」第21回日本家族社会学会、甲南大学、2011年9月11日

⑯ HABAZAKI Makiko, Women and Political Participation After Civil War ---A Case Study of Nepal, Women’s World 2011, July 5th 2011

⑰ Natsumi Takeshita, Hisayo Ushinohama, Machiyo Ikuta, Sumiko Shimoshikiryo, The r

ealities of sexual education in school, community and households in Kalimantan, Indonesia, 10th International Family Nursing Conference, Kyoto, Japan, June 27, 2011

⑱ Ushinohama, Natsumi Takeshita, Sumiko Shimoshikiryo, Machiyo Ikuta, BDD (Bidandi Desa, The Community Midwife) as a Family Health Nurse in Indonesia, 10th International Family Nursing Conference, Kyoto, Japan, June 26, 2011

⑲ 幅崎麻紀子, 『病院出産』を飼いならす：ネパールにおける出産の医療化についての一考察」、第59回北海道社会学会大会、天使大学（札幌）、2011. 6. 4

⑳ 幅崎麻紀子, 「女性に対する暴力」をめぐるローカルな文脈—ネパールにおけるDVシエルトターの事例から、国際ジェンダー学会、開発とジェンダー分科会、2011年2月21日、キャンパスイノベーションセンター

㉑ 嶋澤恭子: 助産協働としての国際保健活動、国際保健コンソーシアム、国際保健中級研修及び国際保健シンポジウム: 国際保健研修—中級コース, 2011. 1. 7. 東京.

㉒ 松岡悦子, 「日本の出産からアジアの出産へ—文化人類学の立場から—」『静岡県助産師講習会』(社)日本助産師会静岡県支部主催 グランシップ映像ホール 2010年7月10日

㉓ Sumiko Shimoshikiryo, Natsumi Takeshita, Hisayo Ushinohama, Machiyo Ikuta, Yukie Shinmyozu, Purnamawati, Sri Sunarti Purwaningsih, Sueo Kuwahara, Etsuko Matsuoka, Gender Gap of Recognition Concerning Domestic Violence Among High School Students in Sanggau Prefecture, West Kalimantan State, Indonesia and Kagoshima Prefecture, Japan, The 2010 International Nursing Conference on Diversity and Dynamic in Nursing Science and Art 7-9 April, 2010, Phuket, Thailand

㉔ Natsumi Takeshita, Miki Harada, Machiyo Ikuta, Nozomi Tottoribe, Sumiko Shimoshikiryo, Hisayo Ushinohama, Purnamawati, Sri Sunarti Purwaningsih, Research on Gender and Sexual behavior in Indonesia; Case Study of Pontianak City B Area, West Kalimantan State, The 2010 International Nursing Conference on Diversity and Dynamic in Nursing Science and Art 7-9 April, 2010, Phuket, Thailand

〔図書〕(計3件)

① 松岡悦子, 「婚姻・親族・子育て」『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編、36-37、ミネル

ヴァ書房 2013年3月

②嶋澤恭子,「第8章 助産の歴史・文化 3. 助産の文化的考察」青木康子編『新助産学シリーズ 助産学概論』195-202. 青海社,2013.

③竹下夏美,子どもの誕生・妊娠・出産と「そなえ」ーインドネシアの伝統的産婆と儀礼
松岡悦子,産むのは女性?それとも医師?
ハンガリー

幅崎麻紀子,出産を取り巻くヒトとモノー
ネパール都市部の病院出産

嶋澤恭子,産後養生と出産をめぐる環境ーラ
スー

『世界の出産:儀礼から先端医療まで』,
(松岡悦子・小浜正子編), 勉誠出版,
267-281(334), 2011年3月

[その他]

Natsumi Takeshita, Etsuko Matsuoka,
Makiko Habazaki, F. Hilary Conroy Award
(Association for Asian Studies), Toront
Canada, 2012.3

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹下 夏美 (TAKESHITA NATSUMI)

京都橘大学・看護学部・准教授

研究者番号: 60352465

(2) 研究分担者

松岡 悦子 (MATSUOKA ETSUKO)

奈良女子大学・生活環境学部・教授

研究者番号: 10183948

下敷領 須美子 (SHIMOSHIKIRYO SUMIKO)

鹿児島大学・医学部・准教授

研究者番号: 10315418

幅崎 麻紀子 (HABAZAKI MAKIKO)

筑波大学・ダイバーシティ推進室・准教授

研究者番号: 00401430

嶋澤 恭子 (SHIMAZAWA KYOKO)

神戸市看護大学・看護学部・講師

研究者番号: 90381920

佐山 理絵 (SAYAMA RIE)

東邦大学・看護学部・助教

研究者番号: 40459821

(3) 連携研究者

()

研究者番号: